

はらしょう
株式会社 原商

地域のインフラと人々の暮らしを
多方面から支える総合商社

46
LEADING COMPANY



1 機械のメンテナンスは建設現場に向いて作業することもあり、二人一組で行うことが多い。機械の種類も多岐にわたるため、先輩に教わりながら覚えていく 2 敷地内にはたくさんの建設機械が並ぶ。掘削機や道路機械、高所作業車など、レンタル機の種類も幅広い 3 2023年10月に北栄町に開設した「鳥取商品センター」 4 新しい重機やアタッチメントが入ると、整備士や営業が集まり、操作方法などを学ぶ 5 福祉用具部門「スマイルケア」では、要介護者の暮らしに沿った介護用品を提案する 6 仕事の合間に休憩室で談笑中。部署や年齢層の垣根のないコミュニケーションがあり、和気あいあいとした社風だ 7 1994年から社長を務める秀浦淑晃社長。前社長である淑晃氏の父は原商創業メンバーの一人で、引退後に淑晃氏が33歳の若さで社長に就任した

時代のニーズに合わせて
幅広い事業を展開

道路やトンネル、オフィスビルや商業施設など、私たちの暮らしを形作るために行われる土木工事や建築工事。そうした現場で使用される建築機械や資材の販売・レンタル・修理等を手がけているのが、松江市を拠点に幅広い事業を展開する《株式会社原商》である。

同社は1962年、建設関連機械の販売・修理を行う会社として浜田市で創業。数年後には工事に関わる建築機械全般のレンタルを開始し、山陰の建設業界において時代に先駆けた業務内容で現場の要求に対応していった。1979年には本社を現在の宍道町に移し、その後も順調にエリアを拡大。現在は鳥取島根に計18拠点を置き、「売ります」「貸します」「直します」を強みに、山陰両県の建設現場を支えている。

同社が手がけるのは建設関連だけに留まらない。「山陰に暮らす人たちの毎日をもっと快適でより良いものに」との想いから、1990年にはオフィス用品やベビー用品、イルミネーションなどのレンタルを行う《株式会社サンテック》を設立。さらに2003年からは福祉用具部として「スマイルケア」を新設。介護

用品のレンタル事業にも参入し、幅広い商品を取り扱っている。

「顧客第一主義」をモットーに、時代の変革の中でも安定して成長できる企業を目指してきました。そう話すのは秀浦淑晃社長。1994年に33歳の若さで社長に就任し、30年にわたり原商を成長させてきた。

「会社にとって一番大切なのは、人が携わるものだからね。義理と人情と心意気、いつの時代も基本はこつこつとかなと思っています。」

建築現場では近年ICT技術の導入や、SDGs・脱炭素社会への意識が急速に高まっている。そうした背景に伴い、同社では多様なニーズに応えるべく、約100社・数千種類に及ぶ多彩なラインナップを揃える。「既存の事業の質を向上させていくことはもちろん、会社として新しいことをやらないと活力が低下していく。新しいアイデアや情報発信の方法を含め、会社のため地域のために次に何をすべきか、若い世代の意見を積極的に取り入れながら考えていきたい」と意欲的に語る秀浦社長。長年地域のインフラを支え続け、人々の暮らしのためにさまざまな事業を展開してきた同社が、山陰の未来に向けて次はどんな展開を見せてくれるのか楽しみである。



株式会社 原商

事業内容

建設機械のレンタル・販売・メンテナンス修理、建設資材の販売、福祉用具の販売・レンタル等

創業 昭和37(1962)年11月

代表者 代表取締役 秀浦 淑晃

社員数 296名(男244名 女52名)

本社 島根県松江市宍道町白石81-10

電話 0852-66-1113

採用エリア(勤務地)

鳥取市、倉吉市、米子市、松江市、出雲市、大田市、浜田市、益田市、岐阜県

採用区分

新卒採用

キャリア採用

採用担当者からあなたへ

地域に根ざす総合社「原商」です！こんな人物を求めています！

- 報告・連絡・相談がキチンとできる人
 - 積極的に挑戦する人
 - 幅広い仕事に真剣に取り組める人
 - 粘り強い人
- 未経験でも大丈夫、明るく元気で何事にも前向きにチャレンジできる方はぜひご応募ください！



資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-66-1113

採用直通 E-mail

oomae@harasho.co.jp

公式サイトはこちら



Instagramはこちら



1 社員同士のコミュニケーション向上のため、社員旅行とスポーツ大会を2年に一度交互に行っている。旅行の行き先はグアムや韓国、北海道など国内外さまざま。今年は京都旅行を楽しんだ。2 社員の健康意識の向上や、社内外のコミュニケーションを目的に、有志によるゴルフ同好会がある。講師を招いたゴルフレッスンや、年に1度のゴルフ大会が開かれ、秀浦社長も社員とのコミュニケーションを楽しんでいる

いろいろなことに挑戦しているものを見つけてほしい

同社では、社員の健康面や安全面でもさまざまな取り組みを行っている。定期的な健康診断やメンタルヘルスクアをはじめ、社員のヘルスリテラシーを高める活動が認められ、2023年には健康経営優良法人に認定。安全面においては新入社員を中心に特別教育を実施し、同社の扱う商品や業務に対するリスクマネジメントを指導する。その上で、これから力を入れていきたいのは働きやすい職場づくりだと秀浦社長は話す。「働き方改革という流れは我々にとってもありがたいきっかけ。ルールを見直し、男女ともにより働きやすい制度や環境を作っていきたい」

「サポート。しかしスキルアップは仕事だけではなく、自分の人生のために役立つものであってほしい」と秀浦社長。「会社が終わってからの時間、あるいは定年後の暮らしを豊かにするためのものであってほしいですね。仕事のためにというのは大前提ですが、それと同様に自分の生き甲斐を一番に考え、充実したものにしてほしい」。そう話す秀浦社長が求める人物像は、自分を大切にすること、そして自信を持って新しいことに挑戦する人。「初めてやることなんて失敗することのほうが圧倒的に多いですよ。私なんて今まで何回も失敗してきましたから。でもやってみないと見つかからない。ここでいろんなことに挑戦し、いろんなものを見つけてほしいと思います」

お客様に信頼してもらえる営業スタッフになるために

大学時代から地元企業での就職を希望し、インターンシップなど積極的に就活をしていた森山さん。「どこにしようか決めかねていた時、小さい頃に家族と遊びに行った原商の展示会の写真を自宅で見つけたんです。何か運命を感じ、ここに決めました」と笑って話す。現在は雲南市にある出張所で、その時の展示会で乗せてもらったいろいろな建設機械のレンタルの営業を行っている。入社から1年以上経ち、営業としての提案力、コミュニケーション力に対して、少しずつ自身の成長を感じていると話す。趣味は大学生の時に始めたというゴルフ

で、休みの日には取引先や友達とコースに出る。社員で構成される会社のゴルフ部にも所属し、社員同士の付き合いも楽しんでいる様子。今後の目標を聞くと、「知識も何もないゼロからのスタートでしたが、先輩方にサポートしてもらいながら努力や勉強をすることで少しずつだけ成果が出てきました。努力することはもちろん、謙虚さを持ち素直に聞く姿勢の大切さを学ぶことができました。これからもっと機械についての知識を身に付けて、お客様に信頼してもらえる営業スタッフになりたい」と、真っ直ぐな眼差しで話してくれた。



出雲支店雲南出張所 レンタル課
森山 潤之丞さん(23)
2023年入社

日々新しいことに挑戦できる面白さ

パソコン作業や事務的な仕事より、機械をいじったり体を動かすほうが好きだという藤間さん。高校時代の夏休みに原商の会社見学をする機会があり、その時の印象が良かったこともあって同社への入社を志望したという。業務内容は主に機械のメンテナンスで、重機をメインに整備と修理を行っている。「修理等の依頼では現場に向いて作業をすることも多く、夏場などは大変な日もあります。お客様に“ありがとう”とか、“助かったよ”と言われると、頑張ってた良かったなと思えます」と笑顔で話す。

藤間さんの部署には同年代も多く、厳しい上下関係等のない明るい雰囲気、先輩にも何でも相談できる環境だという。現在入社4年目だが、「先輩たちのようにたくさん種類の重機を扱うことはまだ難しいです」と藤間さん。機械を点検するための資格をはじめ、それぞれの機械を動かすための免許も取得していかなければならない。「覚えることは山ほどありますが、日々新しいことに挑戦できるので、成長し続けられる面白みがあって飽きないですね。早く先輩方のように、もっといろいろな機械のメンテナンスができるようになりたいです」



出雲支店長浜工場 サービス課
藤間 陽向さん(22)
2021年入社

前職での経験を生かし、福祉用具の的確な提案を

介護福祉用品のレンタルや、バリアフリー化など住宅の改修を行っている原商の福祉用具部門「スマイルケア」。その雲南事業所で2023年4月から働く堀田さんは、以前は介護士の仕事をしていたという。「松江市の福祉施設で介護士をしていました。転職のきっかけは、在宅で介護を受ける方に向けた福祉用具のレンタル業があると知って興味を持ちました。ハローワークでそうした仕事を探してみたところ、当社の求人を見つけて転職を決めました」

現在は福祉用具のレンタルの提案や、施設に向けての販売を行っている。在宅介護の場合は担当のケアマネージャーとともに要介護者（介護が必要な方）の面会に行き、現場を見ながら必要そうな福祉用具・介護用品を提案していく。介護士として実際に要介護者と接してきた経験があるからこそ、要介護者や介護する側にとって何が何を必要かを的確に提案できるのが強みだ。「用具の種類や機能もさまざまですし、新しいものもどんどん出てきます。常に情報をアップデートしてベストな提案ができるようにしています。実際にお客様の暮らしがとても快適になったとお礼をいただくとともに、やりがいを感じられる仕事です」



福祉用具サービス部 雲南事業所
堀田 大間さん(25)
2023年入社